

# 高校生 昭和の名曲挑戦



リハーサルで「のど自慢」出演者(中央)に合わせ演奏する県立竜ヶ崎一高軽音楽部有志＝龍ヶ崎市

## 「のど自慢」伴奏担当

来月3日  
稲敷

### 竜ヶ崎一・軽音楽部

生オケによる「のど自慢」と言えば普通、バックの演奏はプロが務めるもの。そんな中、県立竜ヶ崎一高軽音楽部の生徒たちがバックバンドを結成、11月3日に稲敷市で行われるステージで昭和の名曲に初挑戦する。日頃、自分たちが演奏している音楽とは「異次元」の曲ばかりだが、メンバーは「歌う人たちが引き立つような演奏を行って、会場の老若男女を楽しませたい」と、意欲を燃やしている。

「のど自慢」が予定されているのは、同市伊佐津の新利根体育館屋外ステージで行われる市文化祭ライブ「音 YOUR MARK」(同実行委など主催)。市内外のロック系バンドを中心に8団体が出演する。

今年で6回目を迎える同ライブ。実行委が演目に初めて「のど自慢」を入れたのは、聴衆が一方的に演奏を聞くだけでなく、聴衆にも積極的にライブに関わってもらい、この音楽イベントを市民にもっと知ってほしいという思いから。

出演者は3人。曲は「見上げてごらん夜の星を」(坂本九)、「スイート・メモリーズ」(松田聖子)、「時の流れに身をまかせ」(テレサ・テン)と、昭和を代表する作品。そこでバックバンドをどうするか、実行委で悩んだ末「若い世代に挑戦してもらったらどうか」と、ライブに出演経験のある同軽音楽部に打診した。

依頼を受けた同部顧問、高野陽輔教諭(37)は部内六つのバンドに声掛け。しかし未知の音楽への不安からか、手を挙げたバンドは皆無だった。そこで個

人での参加を呼び掛けると、1人、2人と反応が。結局、ギター・キーボード・ベース・ドラムの4人編成バンドが誕生した。

22日には同校で、バンドと「のど自慢」出演者が初顔合わせ。高校生たちは最初はノリの違いに戸惑いながらも、何回も何回も繰り返し返すことで、徐々に歌へ寄り添っていった。すると出演者からは「知らない歌をこまめに仕上げるのに大変な練習を積み重ねてきたのでは」「リズム感が素晴らしいと感じ。自分も頑張って練習しないと」と、称賛の声が上がった。

ドラム担当の2年、玉城里織さん(16)は「バラードなんてたたくの初めて。全然ノリが違う。でも乗り越えれば演奏の幅が広がると思う。思いっきり『昭和感』を出せるようにしたい」と意欲満々。高野教諭は「歌い手を生かす演奏とは何か。生徒にとっては一つの試練。でもそれは自分たちを生かすことにもつながる。みんなの可能性を信じている」と、期待を込めた。

「のど自慢」は午後0時半ごろからを予定している。ライブは入場無料。雨天決行。

(藤崎和則)